

2025年(令和7年) 5月22日 木曜日

岩田産業、土木分野を強化

鉄スクラップ集荷量拡大へ

鉄スクラップ業者の岩田産業(本社＝大阪府東大阪市、岩田昌幹社長)は扱ひ量の維持拡大を図るため、土木工事関連から発生する鉄スクラップの集荷を強化する。既存の取引先への営業や新規開拓に注力し、小口から大口の案件まで幅広く対応する。

同社は在庫ヤードや大型加工設備を持たず、4トンから10トンのヒア付き車両4台を含むさまざまな車両を駆使して関西一円の発生工場や土木工事の発生現場での引き取りを得意とする。

最近では国内景気の減速で発生工場からの集荷量が減少傾向にあり、土木関連も人手不足による工事の延期や公共工事の発注減などで、扱ひ量は1～2割減の2000トンを推移している。

発生工場への新規営業は既存のスクラップ業者と競合するため、得意とする土木分野への営業活動を展開する考えで、岩田社長は「土木工事現場のスクラップ発生量は数100トンと少ないが、当社のように小回りを利かせて対応できる業者が少ない。ニッチを攻める」と意欲を語る。提携企業による応援体制も整っており、大口案件でも迅速に対応する。

業者の安全に関する啓発活動を行うなど建設業界を多様な面からサポートする。

同社は1981年創業。入荷した鉄スクラップは地場の電炉メーカーへの販売を最優先とするが、電炉各社で予約納入システムの導入が進展しており「予約を取れない場合は沿岸業者などに売らざるを得ない。発生工場の都合で当日引き取りや時間指定などがあり、入出荷サイクルが短い当社にとってはネックになっている。運転手の長時間待機や残業もさせられず悩ましいところ」と話す。